

赤潮・貧酸素情報（3）

令和2年7月28日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

7月28日（火）に全域調査を行った結果、海域の中部～南部の沿岸域を中心とした酸素濃度の低下は改善されました。

<貧酸素の状況>

- 沿岸部を中心とした全調査点で酸素濃度は50%を上回っています。（図1）
- ※貧酸素時の酸素濃度の基準（酸素濃度30%以下）

<塩分濃度の状況>

- 中部（葦島地先）と南部（宇島地先）では依然塩分濃度の低下が見られますが、人工島西部では7月20日（月）の調査時より回復しています。（図2）

<今後の対応>

- 現在、有害赤潮プランクトン（カレニア ミキモトイ、シャットネラ属）は非常に少ない状況ですが、今後晴天が続くと増殖し赤潮になる可能性もあります。
- 研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報にご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、
豊前海研究所(0979-82-2151、担当:恵崎、後川)までご連絡下さい。

7/28 漁場調査結果

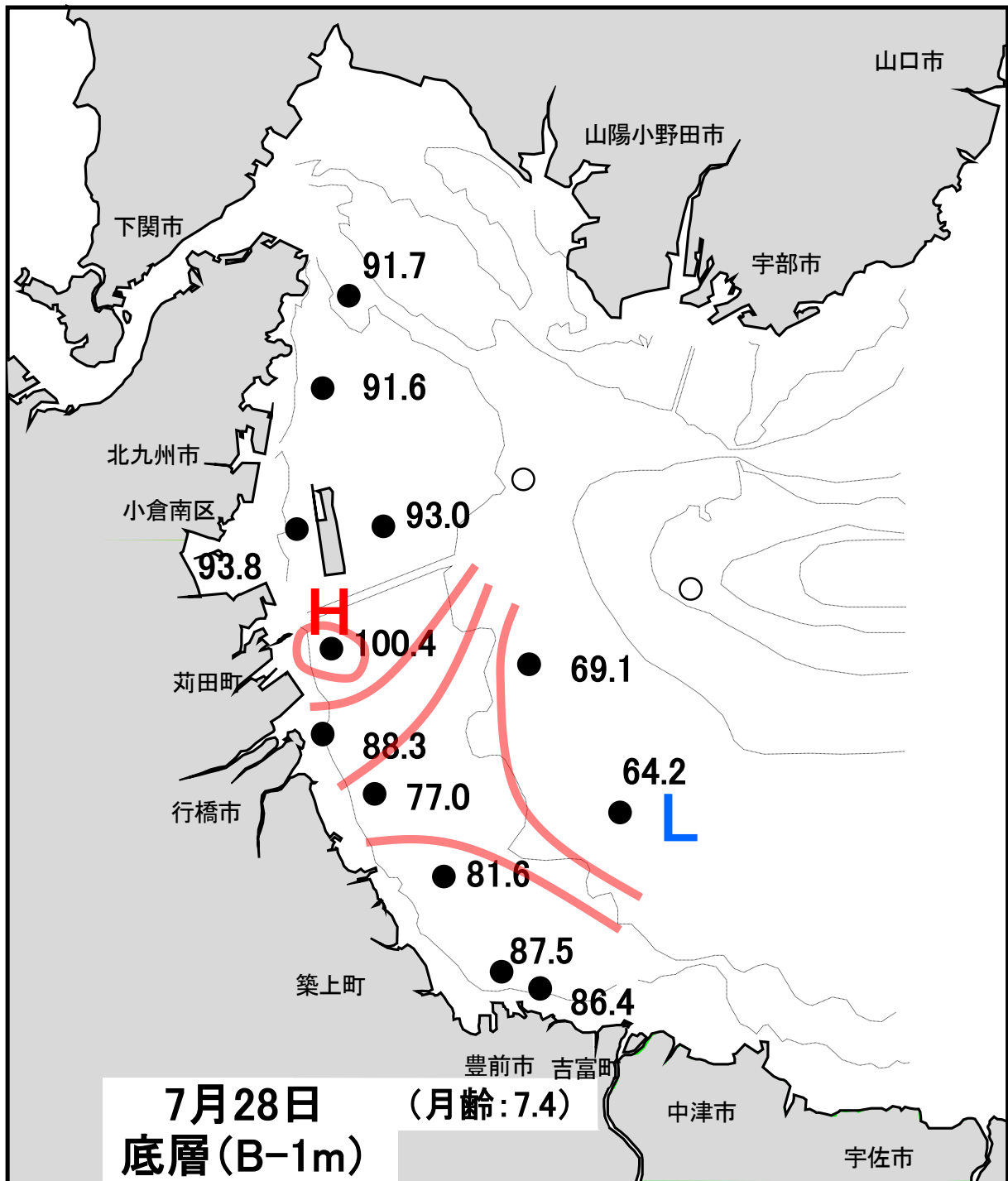


図1 各調査点の底層の酸素濃度 (%)

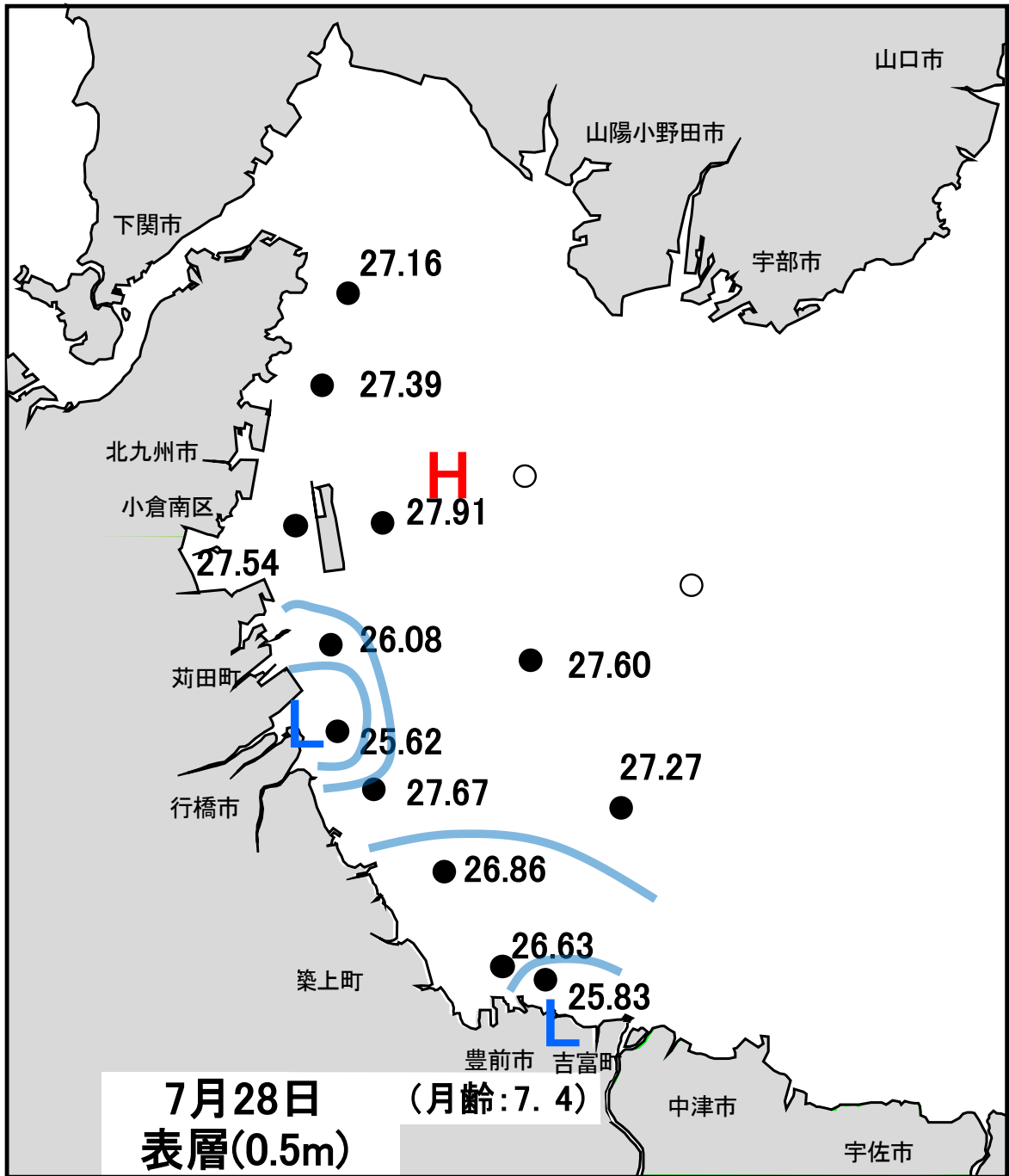


図2 各調査点の表層の塩分濃度